

もも・ネクタリン特報 号外3

H27. 6. 5

J A 中野市営農センター

J A 中野市りんご・もも部会

せん孔細菌病は、降雨とともに果実への感染が広がります。
梅雨期に入る前に再度、病斑の除去を見直しましょう！！

せん孔病多発園では、樹トかん水(畑灌)は可能な範囲で止めましょう

☆ せん孔病多発生園では、下記を参考に被害を最小限に抑えましょう ☆

① 春型枝病斑を除去する（伝染源を少しでも減らす）

* 枝病斑を全て除去すると結果枝が不足してしまう場合は、先枯れ症状を中心に切除して、結果枝を確保する。



葉病斑

赤褐色の斑点を生じ、
後にせん孔。（葉に穴が空く）

葉病斑の近くに枝病斑あり

春型枝病斑

紫褐色。陥没。亀裂を生じる。
葉病斑の周辺に散見。

平成27年6月1日 撮影

② 薬剤の散布間隔は10日以内とする（予防散布を継続する）

* 薬剤散布による防除（殺菌剤）は、あくまでも予防です。感染した後の治療効果は期待できません。
降雨前の散布を徹底してください。

③ 早期に袋掛けを実施する（降雨による果実感染を防止する）

* せん孔細菌病多発が心配される園地では、果実感染防止のため、薬剤散布実施後なるべく早く袋掛けを実施してください。ただし、黄金桃・ネクタリン等で7月に生理落果が発生する品種は、着果量をやや多めに残して袋掛けを実施してください。

★★ お知らせ ★★

講習会の開催について

J A 中野市りんご・もも部会
J A 中野市園芸技術課

日時・集合場所：6月10日（水） 午前 9時 営農センター駐車場
6月10日（水） 午前11時 長印中野駐車場

内容：①せん孔細菌病 防除のポイント（枝病斑の除去）
②仕上げ摘果、夏季管理 等

～皆様のご参加、お待ちしております～